

西山公園（第3期）防災基本計画

令和5年3月策定

長岡京市

目 次

1 はじめに	1
1-1 計画策定の目的.....	1
1-2 計画の位置付け.....	1
1-3 公園整備の背景.....	1
(1) まちの魅力づくり.....	1
(2) 防災対応力の強化.....	1
2 現 況	2
2-1 西山公園の現況.....	2
3 公園計画	3
3-1 整備方針.....	3
(1) ゾーニング計画.....	3
(2) 設計コンセプト.....	4
(3) 防災・減災の機能.....	4
3-2 防災機能計画.....	8
(1) 災害時の役割.....	8
(2) 災害時利用想定図.....	9
3-3 今後の検討課題.....	13

1 はじめに

1-1 計画策定の目的

長岡京市の魅力を高めるとともに、南海トラフ巨大地震などの発生予測に伴う大規模災害への対応能力を高めるため、東日本大震災及び熊本地震で発生した甚大な被害の教訓を踏まえ、広域避難場所として選定する都市公園に対し、防災機能の整備を進めており、令和4年度に「西山公園（第3期）防災基本計画（以下「本計画」という。）」を策定しました。

1-2 計画の位置付け

本市の地域防災計画を踏まえ、西山公園の基本的な考え方や整備方針について、具体的な導入機能やその配置等を明確にするため、本計画を位置付けるものです。

1-3 公園整備の背景

（1）まちの魅力づくり

長岡京市の西山ならではの魅力と特色ある公園づくりを推進し、若者世代の賑わいを呼び込むとともに、高齢者の健康づくりやレクリエーション等の場として活用を図り、「誰もが暮らしやすいまち」として、バランスのとれた快適な都市環境を広くアピールできる公園づくりを目指す必要があります。

（2）防災対応力の強化

南海トラフ巨大地震などの大規模災害発生時には、自らの判断で一時的に避難行動を安全に確保できる広域避難地の機能と災害応急対策、復旧・復興を迅速かつ円滑に進めていくため、応急仮設住宅の建設用地を予め整備する等、総合的な防災・減災対策が重要となっています。

2 現況

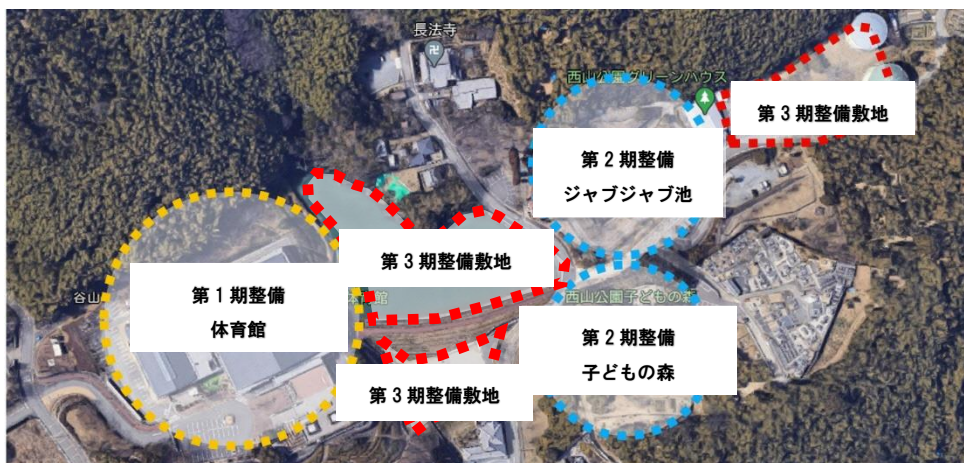
2-1 西山公園の現況

西山公園は昭和57年12月17日に都市計画公園として都市計画決定し、以降、第1期整備において体育館、第2期整備においてジャブジャブ池（徒渉池）と子どもの森の整備が実施されました。令和4年度からは、第3期整備として新池の護岸整備、内池の駐車場整備、配水池跡の広場整備を実施していきます。

【西山公園の沿革】

年月日		内容	施設	概要
第1期	S58.1.14	都市計画事業認可	・体育館	・観覧席も備えた本格的な体育館施設
	S61.7.12	供用開始		
第2期	H5.1.29	都市計画事業認可	・グリーンハウス ・ジャブジャブ池（徒渉池）	・図書コーナー、レクチャールーム等を年間通じて利用できる ・西山の間伐材を燃料とした薪ストーブが設置されている ・水深が浅く、幼児が水と親しみ水遊びができる池
	H13.5.1	供用開始		
	H18.4.1	供用開始		
第3期	R3.8.24	都市計画事業認可	・広場	・防災機能を備えた公園として整備を進めている

【西山公園の整備箇所図】



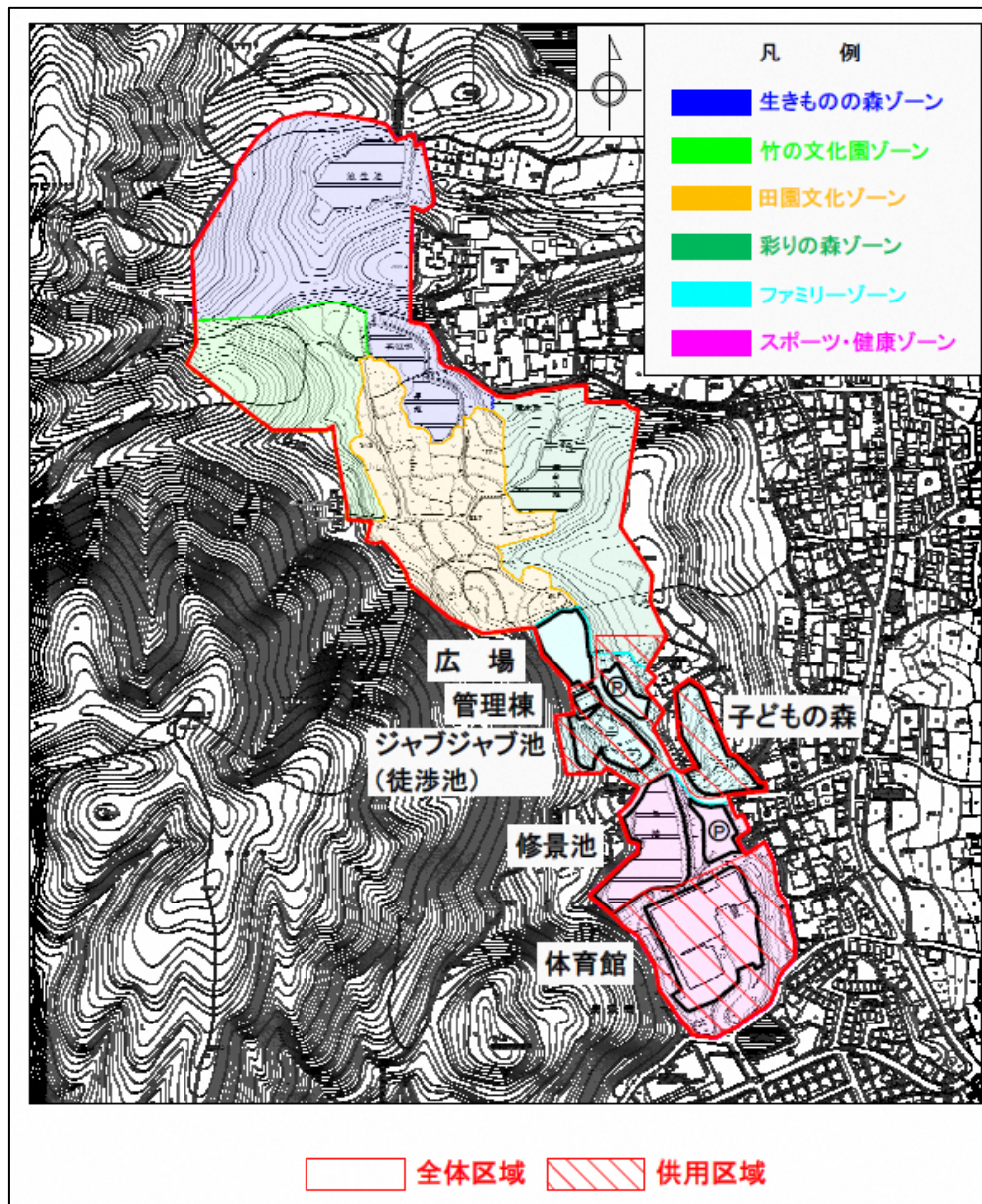
3 公園計画

3-1 整備方針

(1) ゾーニング計画

西山公園における配水池跡広場については「定住促進の拠点となる公園」として、既存のジャブジャブ池、子どもの森を含め、新規に配水池跡地を加えて、「ファミリーゾーン」として設定されています。ジャブジャブ池における夏の水遊び以外の季節にも家族連れの利用に供するよう、配水池跡地を活用した子どもの遊び場、子どもの森などを中心に子育て世代が水や森、遊具などで楽しめる場としています。

【西山公園 ゾーニング計画】



(2) 設計コンセプト

令和2年度西山公園（第3期）基本設計等業務委託より、広場整備における設計コンセプトは以下のとおりです。

「～家族連れで憩い・楽しみ、四季を感じる公園づくり～」

<森の憩いと多様な遊びを楽しむ公園> <市民の安全を確保する公園>

西山地域の自然空間を楽しむことができる芝生広場・遊具広場を中心とした自然公園。
災害時には避難場所や防災拠点として活用できる防災機能を備えた公園として整備する。

(3) 防災・減災の機能（北部広域避難所 約2,000人）

長岡京市地域防災計画において、西山公園は広域避難場所に選定されています。地震等による延焼火災等が発生した場合、市民の生命及び身体の安全を確保するため、一時的に多くの市民が避難できるよう以下のような防災機能を備えた施設を予定しています。

① 屋内避難所（西山体育館 面積約3,200㎡）【第1期整備】

平常時は世代を選ばず、それぞれ自由に利用できます。また災害時には、約1,020人を受け入れる見込みです。

② 屋外避難所（広場 面積約800㎡）

平常時は世代を選ばず、それぞれ自由に利用できます。また災害時には、約400人を受け入れる見込みです。

③ 四阿（1基）

休憩所は防災四阿を採用しており、災害時には屋根付きスペースとして様々な活動拠点として活用できます。仮設のシート等により囲うことが可能です。

④ かまどベンチ（2基）

災害時においても炊き出し等の活用ができるようにかまどベンチを採用しています。

⑤ マンホールトイレ（5基）

「防災公園の計画・設計・管理運営ガイドライン（平成29年9月）」により、広場には災害時にトイレとして利用できるマンホールトイレを設置します。

⑥ 防災倉庫（1基）

広場には災害時に必要となる物資を貯蔵する備蓄倉庫を設置します。飲料水、食料、毛布、マンホールトイレテント、発電機等を保管する予定です。

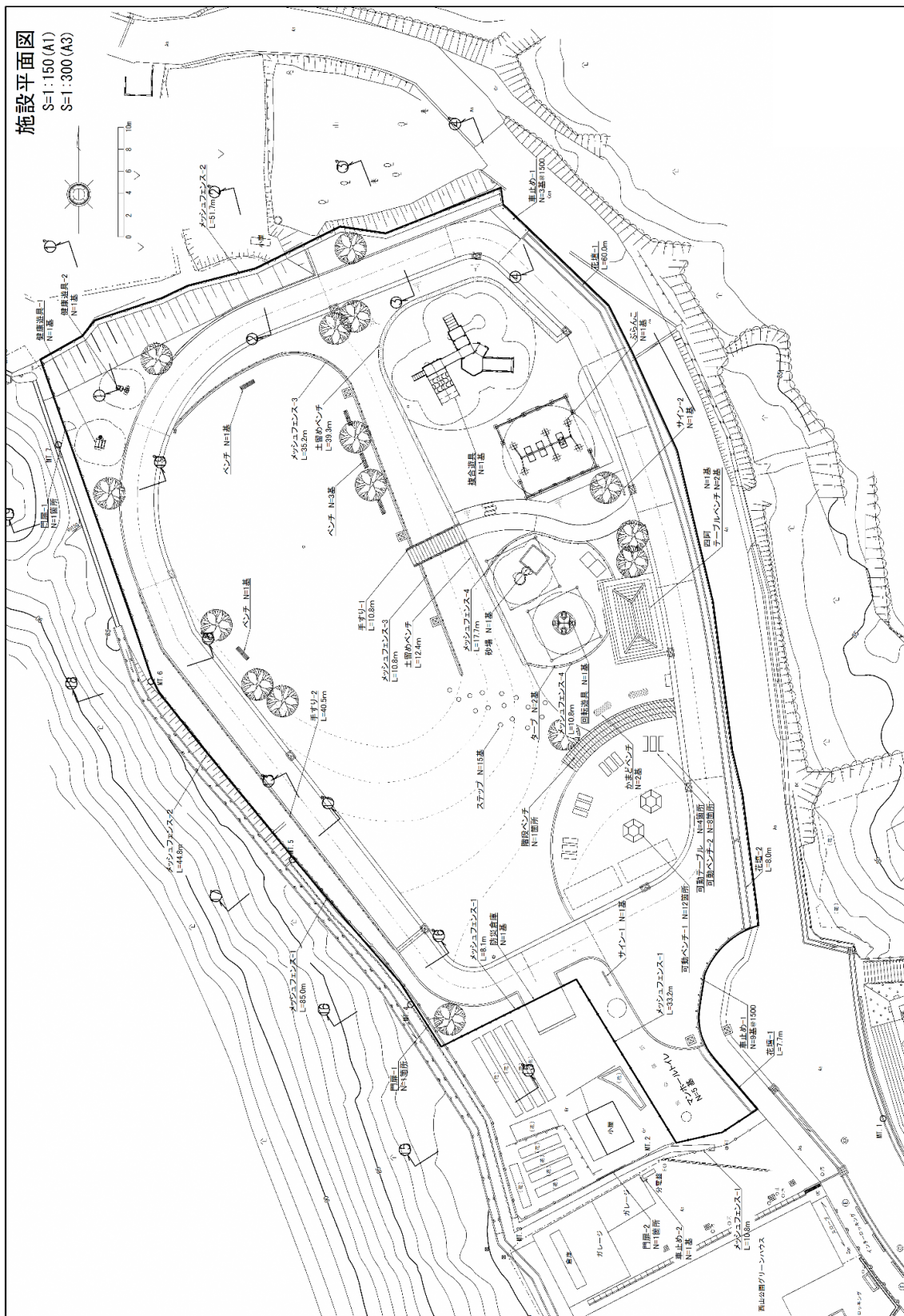
⑦ 子どもたちの遊び場（メンタルケア）

災害発生後は、子どもたちの心のケアが重要です。避難してきた子どもたちが、平常時から馴染み親しんでいる場所で遊ぶことによって、被災ストレスの解消に繋がられるよう、災害発生後も、子どもたちの遊び場として、一定のエリアを確保し、開放します。

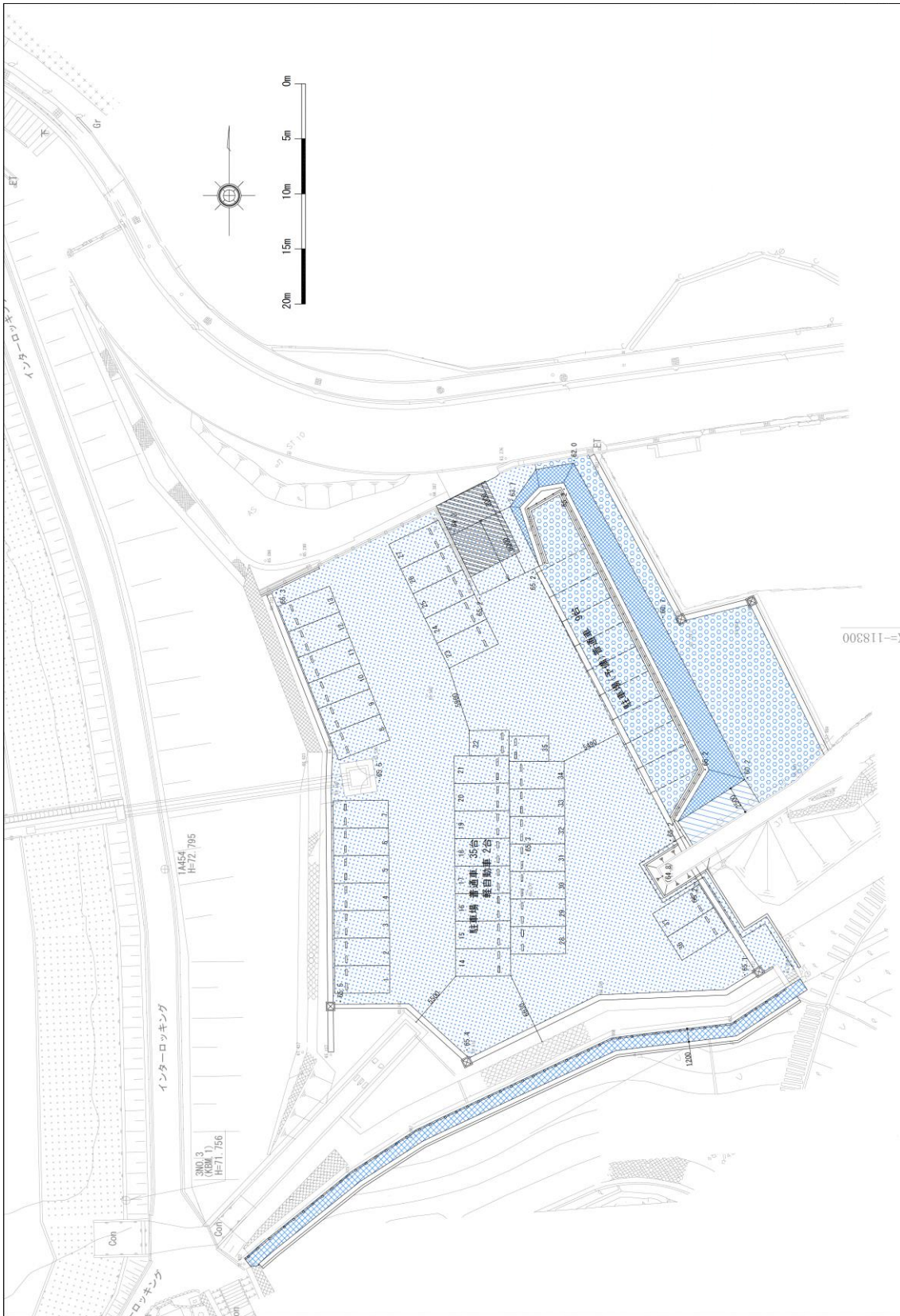
⑧ 駐車場（約40台）

平常時は公園利用者の駐車場として利用できます。災害発生後は、テント等の一時的な避難生活場所としての活用が見込まれます。

【広場整備（第3期）計画平面図】



【内池駐車場 計画平面図】



3-2 防災機能計画

(1) 災害時の役割（大規模な火事災害は対象外）

災害時に、本公園が担う役割については、施設ごとに異なり、また、発災直後から復旧・復興段階に至るまで、時間の経過によっても、担う役割が変化することを考慮し、以下のとおり整理します。

【段階における施設と利用方法】

段階	発災前		発災～3時間後程度	3時間後～3日程度	3日～1ヶ月程度	1ヶ月～
	予防段階	直後段階	緊急段階	応急段階	復旧・復興段階	
施設と利用方法	供用開始区域	体育館	避難所の開設	避難生活スペース	避難生活スペース	避難生活スペース
		管理棟 (グリーンハウス)	一時避難	応急救護スペース	一般開放	一般開放
		広場※1	一時避難	一時的避難生活スペース (テント等の滞在スペース)	一時的避難生活スペース (テント等の滞在スペース)	一般開放：子どものメンタルケアを兼ねた遊び場として開放
		管理施設 (四阿・かまどベンチ)	一時避難	一時的避難生活スペース (炊き出し等の滞在スペース)	一時的避難生活スペース (炊き出し等の滞在スペース)	一般開放：子どものメンタルケアを兼ねた遊び場として開放
		子どもの森	一時避難	一般開放：子どものメンタルケアを兼ねた遊び場として開放	一般開放：子どものメンタルケアを兼ねた遊び場として開放	一般開放：子どものメンタルケアを兼ねた遊び場として開放
		ジャブジャブ池 (徒渉池)	一時避難	一般開放：子どものメンタルケアを兼ねた遊び場として開放	一般開放：子どものメンタルケアを兼ねた遊び場として開放	一般開放：子どものメンタルケアを兼ねた遊び場として開放
		駐車場	一時避難	一時的避難生活スペース (テント等の滞在スペース)	一時的避難生活スペース (テント等の滞在スペース)	一般開放
	未供用区域	—	—	—	—	

※1 土砂災害の警戒情報がある場合は、土砂災害警戒区域は対象外とする。

(2) 災害時利用想定図



災害時利用想定図

緊急段階 (3時間後~3日程度)



熊本地震のテント村(出典:内閣府)



炊き出し訓練(出典:国土交通省)



熊本地震のテント村
出典:(一財)消防防災科学センター
「災害写真データベース」



新潟県中越沖地震の救護用テント
出典:(一財)消防防災科学センター
「災害写真データベース」



新潟県中越沖地震の避難所
出典:(一財)消防防災科学センター
「災害写真データベース」

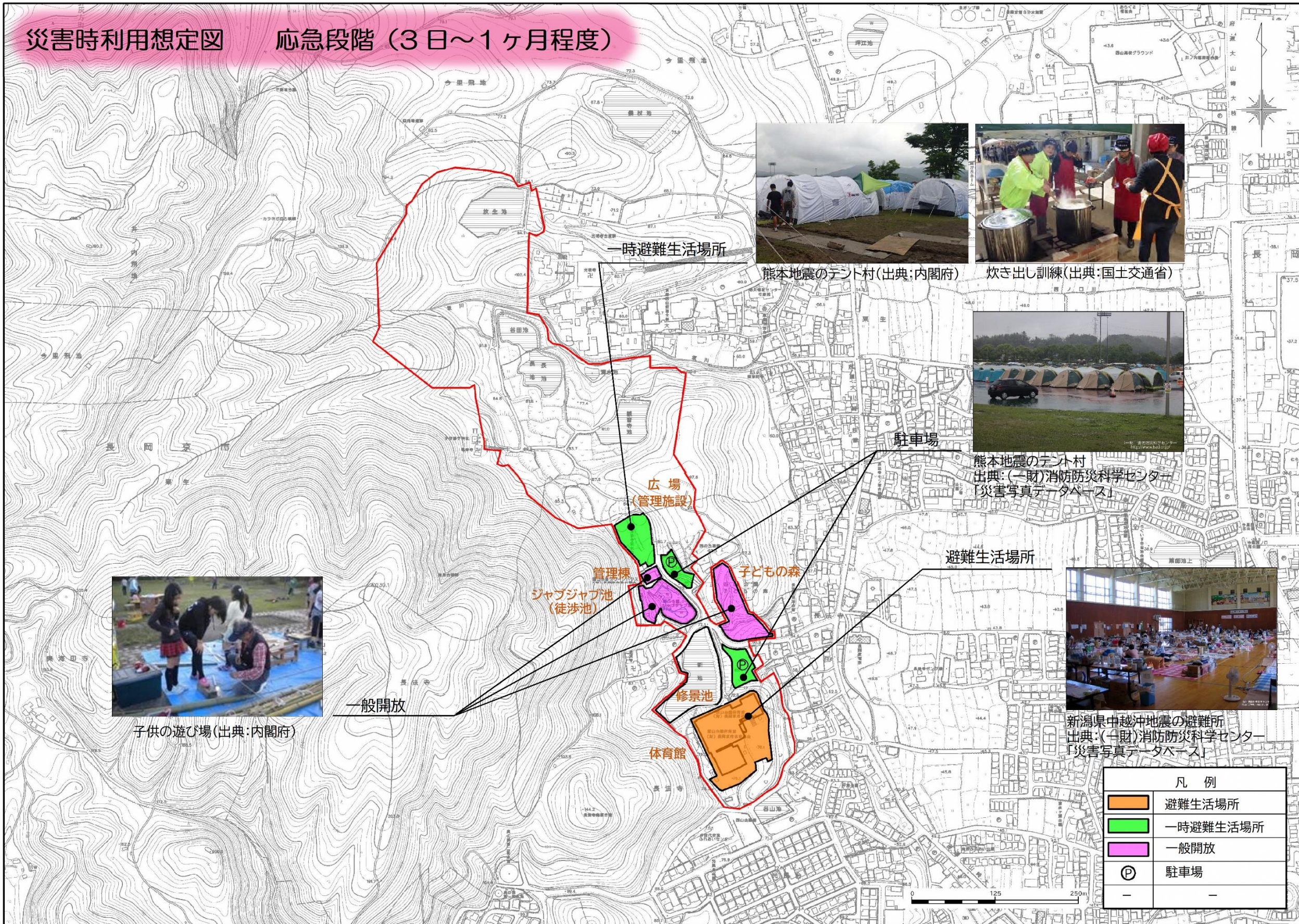


子供の遊び場(出典:内閣府)

凡例	
	避難生活場所
	一時避難生活場所
	応急救護場所
	一般開放
	駐車場
-	-

災害時利用想定図

応急段階 (3日~1ヶ月程度)



熊本地震のテント村(出典:内閣府)



炊き出し訓練(出典:国土交通省)



熊本地震のテント村
出典:(一財)消防防災科学センター
「災害写真データベース」



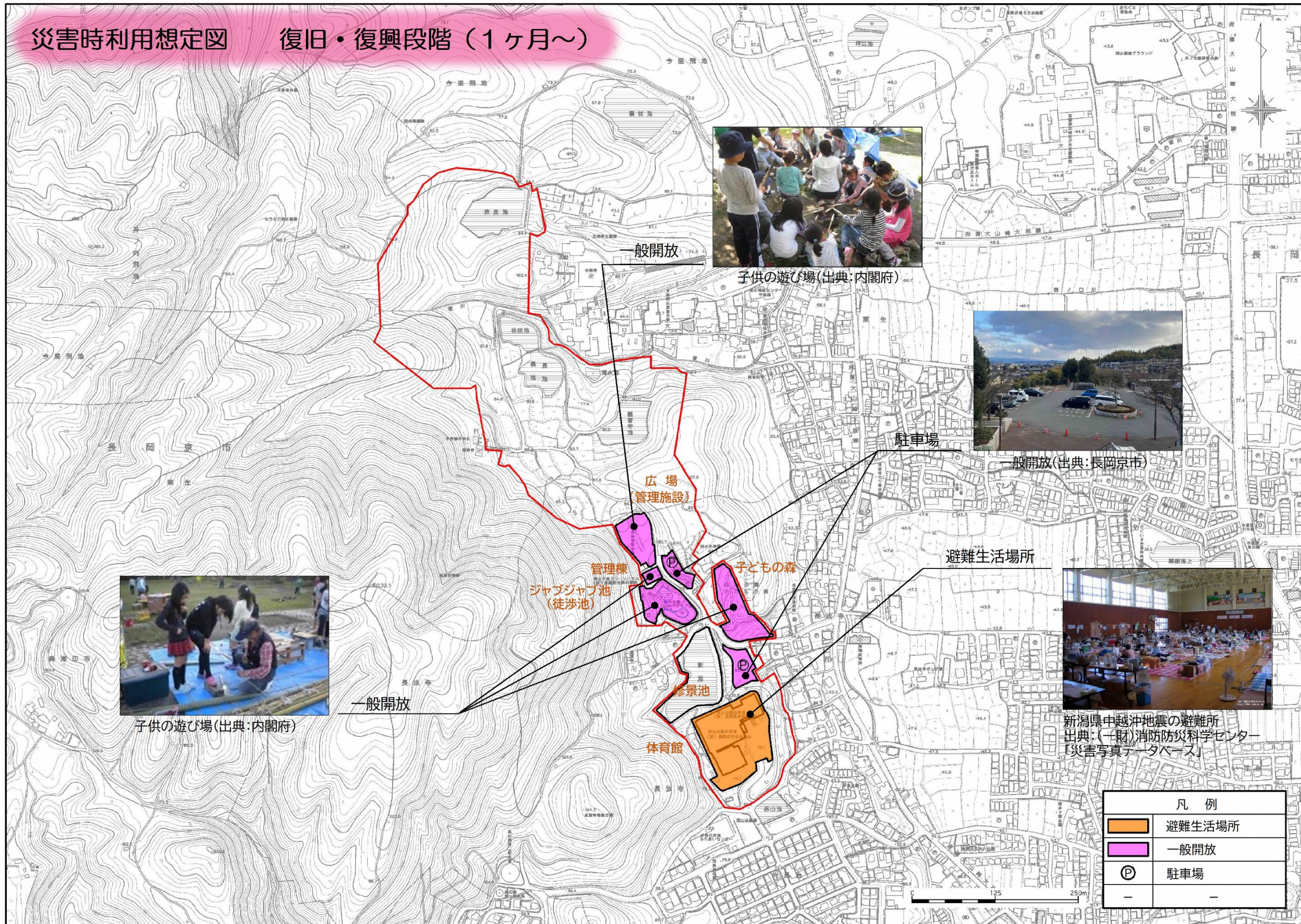
子供の遊び場(出典:内閣府)



新潟県中越沖地震の避難所
出典:(一財)消防防災科学センター
「災害写真データベース」

凡例	
	避難生活場所
	一時避難生活場所
	一般開放
	駐車場
	-

災害時利用想定図 復旧・復興段階（1ヶ月～）



3-3 今後の検討課題

市民をはじめ、より多くの利用者の期待に柔軟に応えるため、今後の公園活用等について、各関係機関等との調整を図ります。

併せて、民間事業者の参入意欲や連携の実現可能性を把握するなど、柔軟に対応するものとしします。

なお、現段階では、本公園の防災機能計画は、地域防災計画には反映されていませんが、災害に対する備えや活用の内容等については、今後の地域防災計画の見直しを見据えたものとしています。

「公園利用」の枠だけに留まらず、将来のまちづくりを展望した活用法についても幅広く模索しながら、検討を継続していきます。